

租税教育実践レポート

税の仕組みから地域の未来を描く実践

登米市立豊里小中学校教諭 9学年 小川 康輔

実施年月日：令和7年11月18日 58名

1 実践計画・指導のねらい

生徒は税への関心が高い一方、その用途や社会基盤としての役割を具体的に捉えきれていない実態がある。本実践では、税理士による租税教室を起点に、公正な負担と持続可能な社会の実現について理解を深めることをねらいとした。実践では、生徒自らが立てた問いの解決を軸に、ふるさと納税や地域の決算報告（登米市「広報 TOME」）などを活用して地域財政を多角的に分析した。生徒は生活を支える税の仕組みや地域間の税収格差に驚き、地域の将来を担う主権者として、税の使い道や行政参画への意欲を具体的に高めるなどの反応が見られた。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問(○), こどもたちの反応(●), 使用教材等(□)
事前学習	1 租税教室 7月10日(木) 講師：税理士	○ <u>税金はなぜ必要なの？</u> ● 税により私たちの生活が成り立っていることが分かった。 ● 税は公平さを大切にし、4つの方法で集めていることを知れた。 ● 税金は持続可能な社会を作り出すのに大切なもの。 □ 1億円レプリカ、資料「税理士による租税教室」 □ 「私たちの暮らしと税」
関連学習	2 消費者教育 7月17日(木) 講師：南三陸高校教諭	○ <u>お金の使い方と資産形成をどう考えるべきか？</u> ● お金と真剣に向き合うことは、人生と真剣に向き合うこと。 ● 税金は社会全体に還元されている。 □ 講師作成のスライド
1	1 地方自治の考え方と役割 ・ 地方自治 ・ 地方公共団体の役割 ・ 地方分権	○ <u>地方自治とはどのような考えに基づいて行われている？</u> ● 身近な地方公共団体は、地方自治をどのように実現しているのだろうか？ ● 地方公共団体は、消防や警察など様々な仕事をこなしている。 ● 国と地方公共団体との間には役割分担があり、地方自治は「民主主義の学校」と言われている。 ● 動画を見て、ふるさと納税とはどういうものか理解した。 □ NHK for School、教科書、登米市ホームページ
2	2 地方自治の仕組み ・ 地方議会 ・ 首長 ・ 直接請求権	○ <u>地方自治はどのような仕組みで行われている？</u> ● 地方公共団体の議会と首長も互いに抑制し合い、均衡を保っている。 ● 地方自治と首長で役割分担があるのはなぜか、また税金関係の仕事をしていると書いてあったけれど地域ごとに違いがあるのか、気になった。 □ 教科書、登米市ホームページ
3	3 地方公共団体の課題 ・ 地方財政の仕組み ・ 地方財政の健全化 ・ 地方創生 4 住民参加と私たち ・ 住民参加 ・ 地域の課題	○ <u>地方公共団体にはどのような課題あるの？</u> ● ふるさと納税について、気になっていたのでのどのようなものか知れてよかった。 ● 税金は思っているよりもたくさんあることが分かった。地方交付税交付金や国庫支出金は地方の格差をなくすためには大切なものだった。 ● 大都市に比べ、地方は地方税が少ないことが分かった。 ● 宮城県の地方税はどのくらいなのか気になる。 ● 登米市にはさまざまな課題があることが改めて知ることができた。これから自分達にできることを積極的にしていきたい。 □ 教科書、登米市ホームページ、「広報 TOME」

【指導のポイント】《事前・関連学習》

- ◎ 学習前に、税やお金について問いを立てさせ、学習意欲を高める。
- ◎ 生徒が学習前に立てた問いは、講師の先生に事前に送付し、講話で回答をしてもらうことを通して、問いを解決できるようにする。
- ◎ 質疑応答では、積極的に質問をするよう生徒に投げかけたり、パネルディスカッションを取り入れたりするなど、対話の場を設定する。

【指導のポイント】《1時間目》

- ◎ NHK for School「アクティブ公民10地域のことは誰が決める？」を視聴し、自治体による行政サービスの主な財源が税収であること、人口の少ない地域での財源確保が課題となっていることを掴む。また、税収の差を補うふるさと納税の仕組みを理解する。

【指導のポイント】《2時間目》

- ◎ 首長が地方公共団体の予算を作って地方議会に提出すること、地方議会が地方公共団体の予算を議決する仕事を担っていることを掴む。

【指導のポイント】《3時間目》

- ◎ 登米市「広報 TOME 2025年12月号」に掲載された令和6年度決算報告を活用し、身近な地域の地方公共団体の財政上の課題や税金の使途を掴む。
- ◎ 単元のまとめとして、「地方公共団体の課題と私たちにできること」について、自分の考えをGoogleスライドにまとめさせ、住民参加の素地を養う。

3 実践の成果(◎)と課題(◆)

- ◎ 税理士による講話や登米市の決算資料の活用を通じ、税が持続可能な社会を作るための大切な基盤であることを理解させることができた。
- ◎ 地方交付税交付金や国庫支出金が地域格差をなくす役割を果たしていることに気付かせ、行政サービスが税で成り立っている実感に伴う学びとすることができた。
- ◎ Googleスライドを用いたまとめ学習により、税の使い道に対する主権者としての意識や住民参加の素地を養うことができた。
- ◆ 生徒から「地域ごとの税の違い」や「宮城県の地方税の具体的な額」への関心が示されたため、より詳細な比較データの提示が必要である。
- ◆ 税の仕組みの理解に留まらず、地域の課題解決に向けて具体的にどのような行動（納税者としての意思決定など）が取れるか、実践的な探究を深めることが今後の課題である。